発掘速報展平城2001「奈良の都を掘る」

平城宮発掘調査部が実施した発掘調査のうち、2000年度の成果を主体として、一部2001年度の成果も含めて速報展示したものです。11月13日～25日まで、平城宮跡資料館で実施しました。

展示は、遺跡展示と遺物展示に分かれます。遺跡展示は、平城宮では、第一次大極殿地区（315・316次）、平城京内では、左京三条一坊（314-17次）興福寺中金堂・回廊（325次）興福寺一乗院（317・321次）興福寺大乗院（317・321次）西隆寺（320・324次）です。発掘遺構の写真パネル、実測図、復原図などにより、わかりやすい展示をめざしました。

遺物展示は、第一次大極殿地区（315・316次）出土の木簡、一乗院（317・321次）出土の土器、瓦、銅工房関係遺物を展示しました。

速報展の観覧風景

とくに、生の木簡の展示は好評で、「難波津の歌」の一節を記した木簡はとりわけ人気を集め、くいいるように眺める姿が見られました。

木簡の展示にあたっては、期間の前半と後半で木簡を入れ替え、毎朝、夕に保存液の点検をおこないました。また、展示ケースには、紫外線測定器を設置し、展示環境のデータ採取に努めるなど、保存に万全を期しました。

この展示では、同時に「天平の貴族」と題して、奈良時代のファッションを復元した人形4体を展示しました。華麗な天平の衣装は、リアルな人形とあいまって、観覧者の目を楽しませました。これは、1988年に制作したもので、今回が、研究所での初披露となりました。

今回の展示に際しては、平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターの多大な協力を得ました。このような展示は、研究所が実施している種々の発掘調査の成果をまとめてご覧いただける機会ですので、今後も続けていく予定です。　　（文化財情報課）

発掘調査の概要

旧大乗院庭園の調査（平城第336次）

大乗院は、かつて南都随一の名園と讃えられた庭園です。財団法人日本ナショナルトラストによる保存修理事業に伴う調査として、奈良文化財研究所では1995年から国指定名勝旧大乗院庭園の発掘調査をおこなっています。

大乗院は一乗院とならぶ興福寺の門跡寺院であり、一乗院から遅れること約100年後の11世紀半ばに創立されました。大乗院門跡は有力貴族の子弟を迎え、平安、鎌倉、室町、江戸時代を通じ、社会的、経済的に強大な権力を誇り、その庭園は各時期を通じ、名高い庭園であったことが、文献資料などから

現地説明会風景

読みとれます。

今年度の調査区は西小池の推定位置にあたります。江戸時代末に描かれた『大乗院四季真景図』には西小池が描かれていますが、現在では埋没してしまっています。今回の調査では、西小池の北部分が姿を現しました。

調査区北側では、昨年度の調査でも検出された漆喰池の続きや階段状石組、石組溝などが検出されました。また、池の北側には、それらから流れこむ水を浄化するための浄水施設があり、絵図からは読みとれない池の細部が、今回の調査で明らかになりました。

12月8日には、一般の方々にむけた現地説明会を開き、約180人の方々にご参加いただきました。調査は12月末までの予定で、断ち割り調査を通して、西小池の造成時期などに関する解明を目指します。

平城宮第一次大極殿院西楼の調査（平城第337次）

平城宮跡では本年度、第一次大極殿復原事業が起